

2025 年 6 月 12 日

岐阜県知事 江崎 禎英 様

長良川の環境改善をもとめる要請書

よみがえれ長良川実行委員会
共同代表 粕谷志郎 亀井浩次

私たちは、長良川の環境改善をもとめ、長良川河口堰の開門調査や木曽川水系連絡導水路事業の中止を求める市民団体・グループです。

今年、長良川河口堰は運用 30 年を迎えます。長良川をめぐる環境と社会状況は大きく変わっています。

運用 35 年目となる 2020 年に常時開門に踏み切った韓国ナクトンガン河口堰を、昨年秋私たちは現地視察をし多くのことを学びました。開門の賛否をめぐる議論の歴史、河口堰を活かしながら生態系を回復させる技術などどれも長良川に役立つことばかりでした。

また本年 3 月に開催された岐阜県長良川河口堰調査検討会では、運用 30 年を機に「新たな知見」を持ち寄る情報交換の場を求める意見も出されていました。

長良川河口堰運用 30 年となる今年こそ、次世代に残せる長良川にするために「開門調査」に向けた動きを始めてください。

昨年、15 年間「凍結」となっていた木曽川水系連絡導水路事業の「継続」が決定されました。導水路の構造も工法も全く変えたとともに、事業費を約 2.5 倍にされたことに県民は驚いています。清流長良川を誇りにしてきた県民にとって、「徳山ダムの水を長良川に流す」この事業は理解しがたいものです。

また、長大な圧力管のトンネル構造となるこの導水路計画を受け、リニア・トンネル工事による地下水低下・地盤沈下で甚大な被害を被っている県民は大きな脅威をもって受け止めています。さらに埼玉県で起きた大規模下水道管の大陥没事故や各都市で続発する水道管破裂事故を目の当たりにして導水路事業への疑問と不安を深めています。国・事業者からは全く説明がありません。

長良川的美濃市横越地区の流域には特別天然記念物のオオサンショウウオ、天然記念物のネコギギ、絶滅危惧種のウシモツゴなどが密に生息しています。環境悪化の危惧から河川工事事務所が設置した「河川環境の調査検討会」でも事業の見直しの意見も出されたと報道されています。

長良川の治水対策は、霞堤の活用などにより、できる限り環境に負荷がかからない方法を取り、河道内に遊水地を建設することはやめてください。

以上、私たちの要請趣旨をご理解いただき、下記の事項についてお応えください。

記

1. 長良川河口堰運用30年にあたり、岐阜県の積極的取り組みをもとめます。

- ①「岐阜県長良川河口堰調査検討会」と協力し、長良川の環境改善をめざし、今後の河口堰の運用に向けた県民議論の場を作ってください。
- ②ナクトンガン河口堰の開門に向けた事例を学び、長良川河口堰の「開門調査」に向けた検討をしてください。

2. 木曽川水系連絡導水路事業について、県民に説明が全く不十分です。事業を推進する姿勢を改めてください。

- ①現在検討されている事業内容の説明の場と県民議論の場を設けてください。
- ②岐阜県の本事業の建設費負担は74億円と言われていますが、この負担がなぜ県民の利益になるのか説明してください。
- ③見直しが予定されている「環境レポート」について、環境分野の専門家（前回意見聴取された方など）を入れた県独自の検討会を設置してください。

3. 横越「遊水地」建設は中止し、霞堤などを活用した治水対策を進めてください。

以上。